

調査対象地（住所）：

### 旧版地形図

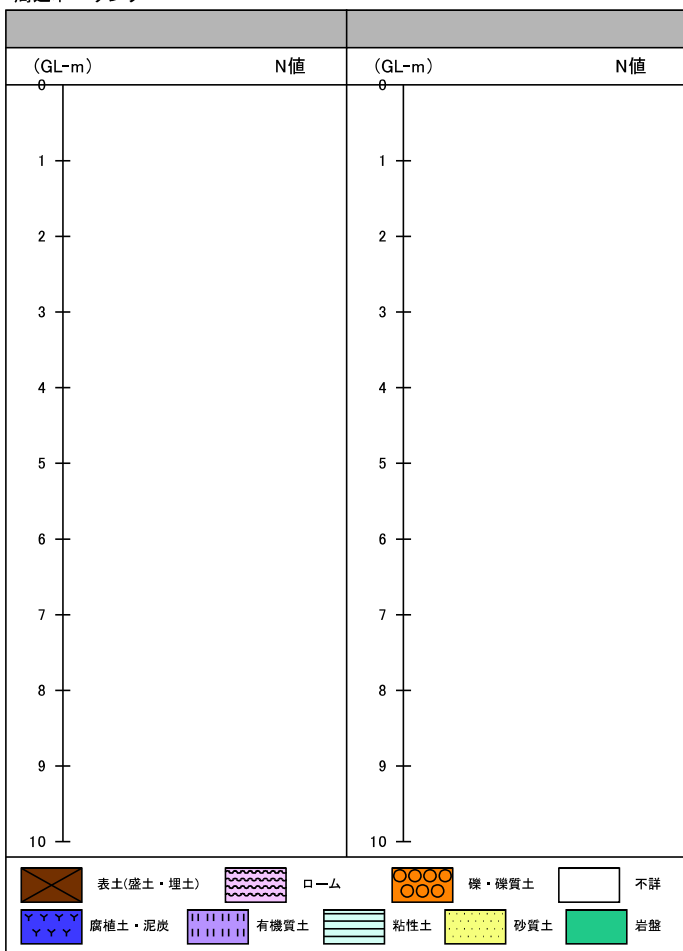


1952年

### 航空写真



### 周辺ボーリング



※半径250m以内、同一地形区分（土地条件図・治水地形分類図を基に山地・斜面、台地、低地に区分）のボーリングデータ（最大2本、深度10mまで）を表示しています。  
 ※土地条件図・治水地形分類図がないエリアは、半径250m以内のボーリングデータを表示しています。  
 ※ボーリングデータの詳細はG-Spaceサイトでご確認ください。

本レポートの改変・加工を禁じます。  
 本レポートをご利用になったことにより生じるいかなる損害についても、弊社は一切責任を負いません。

### 位置図



● ボーリング地点（A,B）

### 土地条件・治水地形分類図



### 地形・地質の概要

土地条件区分 ※1	斜面/斜面（山地）	
産総研地質区分 ※2	後期白亜紀(K2)の花崗岩	
土地利用区分 ※3	—	
治水地形分類区分 ※4	—	
表層地盤-微地形区分 ※5	山地	
標高 ※6	52.8 m	
傾斜角 ※7	10° 以上15° 未満	傾斜方位 ※7 S

出典：※1 国土地理院-数値地図25000（土地条件）H25発行版  
 ※2 産業技術総合研究所-1/20万シームレス地質図  
 ※3 国土地理院-数値地図5000（土地利用）  
 ※4 国土地理院-1/25,000治水地形分類図  
 ※5 防災科学技術研究所-J-SHIS 地震ハザードステーション  
 ※6 国土地理院-地理院標高API（5m、10mメッシュ標高）  
 ※7 国土地理院-基盤地図情報（10mメッシュ標高）  
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、2万5千分1土地条件図、数値地図25000（土地条件）、数値地図5000（土地利用）及び基盤地図情報を使用しました。  
 （承認番号 平28情使、第373-3号）

### memo

調査対象地（住所）：



土地条件・治水地形分類図



土砂災害危険箇所マップ（データ作成：平成22年度）



## 地形地質の概要

土地条件区分 ※1	斜面/斜面（山地）	治水地形分類区分 ※4	—		
産総研地質区分 ※2	後期白亜紀(K2)の花崗岩	表層地盤-微地形区分 ※5	山地		
		標高 ※6	52.8 m		
土地利用区分 ※3	—	傾斜角 ※7	10° 以上15° 未満	傾斜方位 ※7	S

出典：※1 国土地理院-数値地図25000（土地条件）H25発行版 ※2 産業技術総合研究所-1/20万シームレス地質図 ※3 国土地理院-数値地図5000（土地利用） ※4 国土地理院-1/25,000治水地形分類図

※5 防災科学技術研究所-J-SHIS 地震ハザードステーション ※6 国土地理院-地理院標高API（5m、10mメッシュ標高） ※7 国土地理院-基盤地図情報（10mメッシュ標高）

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、2万5千分1土地条件図、数値地図25000(土地条件)、数値地図5000(土地利用)及び基盤地図情報を使用した。(承認番号 平28情使、第373-4号)

災害リスク簡易評価（「土地条件図の数値データを使用した簡便な災害危険性評価手法」（国土地理院）に準じ、土地条件図を基に作成しています。）

浸水の可能性

浸水しない

※判定区分（洪水時に浸水・可能性高い・可能性あり・可能性低い・浸水しない・評価範囲外）

地震による揺れやすさ

小

※判定区分（大・やや大・中・小・評価範囲外）

液状化の可能性

なし

※判定区分（非常に大きい・大きい・小さい・なし・評価範囲外）

## 本レポート利用上の注意

- 評価の基となっている土地条件図または治水地形分類図は、国土地理院25,000分の1地形図をベースに作成されており、位置精度として最大30m程度までの誤差が許容されています。また、表層地盤-微地形区分は、250mメッシュごとに区分されています。したがって、クリックされた地点の評価結果は、土地条件区分または表層地盤-微地形区分の位置ずれにより実際と異なる場合もあります。
- 評価の基となっている土地条件図は、昭和50年代～現在にわたってさまざまな地域で作成されたものが混在しています。したがって、作成された後の開発、あるいは被災地等で、地形、土地条件、河川構造物、周辺建物等が変化している場合もあります。
- 本レポートは、あくまでも地形要素から危険度を評価をしています。下水道の整備状況、樋門（堤防に取り付けられている放流用の水門等）の位置等、地形以外の要因で災害の状況が変わることも考えられます。
- 本レポートでは、人工地形（盛土、埋土等）の評価に当たって、元々の地形（原地形）は考慮していません。実際には同じ「盛土」であっても、谷や旧河道を埋めた盛土や、台地上の盛土等により、危険度は異なります。

本レポートの改変・加工を禁じます。

本レポートをご利用になったことにより生じるいかなる損害についても、弊社は一切責任を負いません。